

## 口腔外科

有家 巧

当科では口腔、顎、顔面領域に生じる疾患を治療対象としている。すなわち1) 歯および歯周組織疾患 2) 口腔粘膜疾患 3) 顎骨疾患 4) 唾液腺疾患 5) 顎関節疾患 6) 神経疾患 7) 血液疾患 (診断と口腔粘膜出血の処置) 8) リンパ系疾患などの口腔外科疾患を扱っている。特に悪性腫瘍の治療においては頭頸部カンファレンスと病理カンファレンスを行い、関連科の協力を得て集学的な治療を積極的に行っている。一方総合病院の口腔外科として、一般開業歯科医院では治療困難な全身管理 (全身麻酔および周術期管理を含む) を要する患者さんの歯科治療や、入院患者さんの口腔管理も行っている。なかでも口腔ケアは、放射線治療、化学療法、骨髄移植、全身麻酔の術前 (上部消化管疾患、肺がん等)、人工呼吸器装着および各種感染症などの患者における治療の遂行および入院期間に影響を与える大きな要因として認識され、十分な対応が求められている。

教育面では当科は歯学部学生の早期臨床体験を受け入れ、歯科医師卒後研修の研修指定病院としてマッチングに参加した。また日本口腔外科学会および日本顎関節学会の研修指定機関に指定され、専門医取得のための卒後教育も積極的に行っている。

臨床研究としては口腔顎顔面悪性腫瘍術後における顎骨再建と口腔機能再建、非関節性開口障害の診断と治療をそのテーマとし、また国立感染症研究所との共同研究として「HIV 感染者の唾液感染性に関する研究」を感染症内科の協力を得て行っている。

### 【2015 年度 研究発表業績】

A-3

濱田裕之、鹿野 学、江頭俊輔、古川正幸、中嶋正博、有家 巧：悪性黒色腫と扁平上皮癌の同時性口腔内多発癌の 1 例「日本口腔外科学会雑誌」61 (11)：P.580-584、2015 年 11 月

前田憲昭、北川善政、長坂 浩、高木律男、大多和由美、宇佐美雄司、有家 巧、宮田 勝、柴 秀樹、吉川政博、秋野憲一、溝部潤子、池田正一：HIV 感染者歯科診療ネットワーク構築と課題 平成 25 年度厚生労働省科学研究費エイズ対策研究事業 HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究 HIV の歯科医療体制整備「日本エイズ学会誌」17 (3)：P.179-183、2015 年 8 月

B-4

秋山広徳、古妻理之、吉田 謙、増井浩二、山崎秀哉、有家 巧、田中英一、清水谷公成：口唇癌に対する 3 次元 CT 画像誘導高線量率組織内照射の初期経験。第 39 回日本頭頸部癌学会、兵庫、2015 年 6 月 4 日

有家 巧：習慣性顎関節脱臼に対し関節結節切除術を行った 1 例。第 28 回日本顎関節学会、愛知、2015 年 7 月 5 日

有家 巧、宮川まどか、後藤倫子、濱田裕之、古川正幸、鹿野 学：ART 中断に伴い急激な

壊死性潰瘍性歯周炎を生じた1例。第69回国立病院総合医学会、北海道、2015年10月2日

宮川まどか、鹿野 学、濱田裕之、江頭俊輔、後藤倫子、古川正幸、有家 巧：右頬部の腫脹と骨吸収を伴った Angiectatic nasal polyp の1例。第60回日本口腔外科学会総会・学術大会、愛知、2015年10月18日

有家 巧、前田憲昭、連 利隆、津田高司：大阪における HIV 歯科診療ネットワーク。第60回日本口腔外科学会総会・学術大会、愛知、2015年10月16日

吉龍澄子、杉原真梨子、有家 巧：頭頸部癌切除後の下顎縁枝麻痺に対する一期的筋膜移植（Fascia bow traction 法）。第33回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会、兵庫、2015年11月13日

泉福英信、有家 巧、富永 燦、吉村和久：HIV感染者における口腔疾患関連マーカーの検討。第29回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2015年12月1日

#### B-5

宮川まどか、鹿野 学、濱田裕之、江頭俊輔、後藤倫子、古川正幸、有家 巧：HSVが陽性であった粘膜優位型尋常性天疱瘡の1例。第46回日本口腔外科学会近畿支部学術集会、兵庫、2015年6月13日